



公儀ヨリ被仰出御書付控 (山口県文書館所蔵)



御用所日記 (岩国市徴古館所蔵)

発生年月日	貞享2(1686)年12月10日(新暦1月4日)昼
震源	安芸灘から伊予灘
マグニチュード(推定)	7.2
各地の震度(推定)	震度5強(最大震度): 広島県広島、愛媛県松山、愛媛県大洲、萩 震度5: 岩国、徳山、広島県三原 (宇佐美龍夫(2003):『最新版日本被害地震総覧 [416]-2001』, 東京大学出版会, 605pp.による)
被害の規模	<p>■「公儀ヨリ被仰出御書付控」によると、萩城で塀・石垣が崩壊し、武家屋敷の一部が破損するとともに、古い民家が倒壊したことが記されている。また、当初、城下町から離れた場所の被害は、三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した程度で、被害は少ないと見られていたが、後に、大島郡(現在の周防大島町)の被害が大きかったことが判明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 城内の塀や石垣が所々崩れたものの、天守閣をはじめ門や櫓、役所、寺社の建物に大きな被害は無かった。 ● 城下町では、強い揺れにより、古い家屋が倒れ、棚にあった器がごとごとく落ち、建具がはずれたり瓦が落ちた。なかでも唐樋地区では、道が割れ泥が出るといった液状化現象が起きた。また、怪我人も発生した。 ● 三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した。 ● 大島郡外入村(現周防大島町外入)では、建物の倒壊や地震による山崩れによって、多数の怪我人が出た。 <p>■「御用所日記」には、岩国で、武家屋敷の塀が壊れたり、多くの屋根瓦が落ちたり錦帯橋の台石がはみ出したと記されている。</p>
被害の特徴	<p>■ 貞享地震は、日本列島の下に沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられており、明治38年(マグニチュード7.2)や平成13年(マグニチュード6.7)など、近年に至るまで繰り返し発生している。</p>



あきなだ いよなだ しゅうき
 安芸灘～伊予灘では、これまでも50～100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が繰り返し発生しているんだ。

じしん く かえ
 地震などの災害に備えて、備蓄品や非常持出品を準備しよう。